

JSPFA の研究活動

令和3年度第2回千葉県体育学会オンラインシンポジウム（2021年12月4日）

テーマ：東京2020大会を支えたボランティア活動を振り返り、千葉のボランティア推進を考える

【内容・演者】

司会（帝京平成大学 馬場宏輝氏）

1. 千葉県都市ボランティアの活動について

- ・開催までの準備から大会期間中の活動について

（千葉県環境生活部県民生活・文化課県民活動推進班 仁平貴子氏）

2. 千葉県開催の大会ボランティアの活動について

- ・車いすフェンシングボランティア育成について（帝京平成大学 馬場宏輝氏）
- ・大会期間中の活動について（植草学園大学 遠藤隆志氏、3年 吉原未紗さん）

3. 千葉のこれからのボランティア活動促進について

- ・千葉県（仁平貴子氏）
- ・千葉市（千葉市総合政策局オリンピック・パラリンピック調整課 峯岸勇氣氏）
- ・大学の立場から（敬愛大学 藤森孝幸氏）

シンポジウムの内容はこちら ⇒ <http://chiba-society-pe.com/R3-2%20sinpojium.pdf>

令和4年度 第2回千葉県体育学会大会（2022年12月3日） 於：千葉大学教育学部

東京2020大会のレガシーづくりに関する実践研究

～日本ソフトパラフェンシング協会の活動を通じて～

- 馬場宏輝（帝京平成大学）、遠藤隆志（植草学園大学）、下永田修二（千葉大学）、藤森孝幸（敬愛大学）

【抄録】IOC（国際オリンピック委員会）は、オリンピックレガシーを「スポーツ」「社会」「環境」「都市」「経済」の5つのカテゴリーがあると述べている。東京2020大会を開催した東京都では、「東京2020大会の成果を都市のレガシーへと発展させ、政策の強化を図り、『未来の東京』戦略 政策のバージョンアップ2022」を策定すると述べている。これらのレガシーは、自治体等が公金を使ってレガシーを残そうとする活動である。一方で、発表者等は大会終了後にボランティアに参加者自らがレガシーを生み出そうと「東京2020大会レガシープロジェクト」を策定し1年間取り組んできた。その成果としてパラボランティア同窓会を開催し「ソフトパラフェンシング」という新しいパラスポーツを開発・紹介した。さらにソフトパラフェンシングの普及の為に、「日本ソフトパラフェンシング協会」を設立し、公認審判員の資格認定や体験会等を実施している。今後の課題は、ソフトパラフェンシングの単なる普及を越えた社会に貢献できる協会の活動とは何かを検討することである。

令和5年度 第1回千葉県体育学会大会（2023年5月13日） 於：千葉大学教育学部

東京2020大会のレガシーづくりに関する実践研究

～日本ソフトパラフェンシング協会の活動を通じて（第2報）～

- 馬場宏輝（帝京平成大学）、遠藤隆志（植草学園大学）、下永田修二（千葉大学）、藤森孝幸（敬愛大学）

【抄録】第1報では、東京2020大会のレガシーとして、「ソフトパラフェンシング」を開発し、その普及の為に、「日本ソフトパラフェンシング協会」を設立、公認審判員の資格認定や体験会等を実施していることを紹介した。第2報では、半年間の活動の成果として、第1報における今後の課題を第2報の研究目的に設定し、以下の成果があったと報告した。「体験会・審判講習を通じて、ポストパラボラ世代の育成が進んでいる（5/13時点で171名）」「帝京平成大学では、パラスポーツサポートサークルが部に昇格した」「依頼による大口の審判講習（青森県他）や体験会の実績を積み上げていく」「パラスポーツフェスタちばの体験ブースが決まるなど自治体への認知度がアップした」「中級パラスポーツ指導員を目指す、池袋キャンパスの学生の育成も進んでいる」。今後は、主催事業の実施、学校現場（小学校・特別支援学校）での普及活動、高齢者施設での普及活動に力を注いでいきたい。最後に、単に事業を展開するというよりも、ソフトパラフェンシングに込めた思想を広めたいという点を強調した。

令和5年度 第2回千葉県体育学会大会（2023年12月2日） 於：国際武道大学

東京2020大会のレガシーづくりに関する実践研究

～日本ソフトパラフェンシング協会の活動を通じて（第3報）～

- 馬場宏輝（帝京平成大学）、遠藤隆志（植草学園大学）、下永田修二（千葉大学）、藤森孝幸（敬愛大学）

【抄録】第1報では、東京2020大会のレガシーとして、「ソフトパラフェンシング」を開発し、その普及の為に、「日本ソフトパラフェンシング協会（JSPFA）」を設立、公認審判員の資格認定や体験会等を実施していることを紹介した。第2報では、第1報における今後の課題を第2報の研究目的に設定し、以下の成果があったと報告した。「体験会・審判講習を通じて、ポストパラボラ世代の育成が進んでいる」「帝京平成大学では、パラスポーツサポートサークルが部に昇格した」「依頼による審判講習や体験会の実績を積み上げている」「パラスポーツフェスタちばの体験ブースが決まるなど自治体への認知度がアップした」「中級パラスポーツ指導員を目指す、池袋キャンパスの学生の育成も進んでいる」。第3報では、第2報以降の活動として、「ちば学リレー講座2023」や「ちばボランティアフォーラム2023」等でJSPFAの活動を含めた講演依頼があったことや小学校での体験授業（公認普及審判員養成講習会）が実現したこと、プロジェクトのクロージングとしての国立競技場での記念撮影を実施し、今後、プロジェクトの基本コンセプトはJSPFAが引き継ぐと説明した。